

# 2018～2024 年度 中期経営計画について(質問)と大阪メトロの回答

2018年9月28日提出、2018年11月1日回答

質問項目	回答	回答部署
<p>1 可動式ホーム柵について、視覚障害者にとっては、路線ごとに全駅設置されることが安全にとって重要な意味をもっています。四つ橋線、堺筋線、谷町線には、全駅の設置計画が示されていません。いつまでに全駅設置するのか示してください。</p>	<p>Osaka Metroでは、プラットホームからの転落や列車との接触事故の防止対策は重要な課題であると考えており、今後の可動式ホーム柵整備計画につきましては、2018年7月に発表しましたOsaka Metro中期経営計画に記載のとおり、2019年度中に利用者数が10万人以上の駅である谷町線東梅田駅、堺筋線堺筋本町駅、2021年度までにその他の利用者10万人以上の駅及び御堂筋線全駅へ設置、その後2024年度までに中央線へ設置と進め、引き続き全駅設置について検討してまいります。</p>	<p>鉄道事業本部 統括部 バリアフリー企画課 電話:06-6585-6656</p>
<p>2 防災対策の強化について、投資額が160億円と明示されましたが、民営化プランで示されていた防災対策費用(100億円)との関連性について具体内容を示してください。</p>	<p>中期経営計画に記載されている防災対策費160億円は、2018～2024年の7か年で、耐震補強、浸水防止設備に投資するものです。また防災対策費用100億円は、2014～2018年の5か年で大容量蓄電池の設置及び浸水防止設備の整備に投資するものです。</p>	<p>鉄道事業本部 統括部 計画課 電話:06-6585-6674</p>
<p>3 バリアフリー対応の加速として投資額85億円を明示し、全駅係員全員にサービス介助士の資格取得を行うとされていますが、駅係員の削減によって駅員不在の駅・時間帯が生まれる可能性があります。駅員不在についての認識を示してください。</p>	<p>Osaka Metroでは全駅に駅係員を配置しており、今後も駅係員の無配置駅を設定する予定はありません。</p>	<p>鉄道事業本部 駅務部 駅務課 電話:06-6585-6395</p>
<p>4 バスの運行について、「シニアの利用が多い系統のバス運行本数拡充」とはどこの系統を指しているのか示してください。</p>	<p>増客・増収が見込める路線の運行本数の拡充を検討しております。</p>	<p>大阪シティバス株式会社 運輸部 運輸課 電話:06-6585-6441</p>
<p>5 自動運転バスの運行について、「2024年までに20路線の開設を目指す」とされています。20路線の具体計画を示してください。</p>	<p>ご質問の20路線の具体計画につきましては、今後、2020年度の営業運転の実現に向け、必要な条件や課題整理、また、課題解決に向けた具体策の検討を行い、公道での実証実験等も踏まえたうえで、2024年までに路線計画を検討していく予定です。</p>	<p>鉄道事業本部 統括部 交通企画課 電話:06-6585-6159</p>